

# 日本国際文化学会

<http://www.jsics.org>

## ニューズレター

2012年2月29日 発行

日本国際文化学会事務局

〒253-8550

神奈川県茅ヶ崎市行谷1100

文教大学国際学部

山脇千賀子研究室

### 第11回全国大会（国際文化会館と青山学院大学で開催）に向けて

## 第11回全国大会プログラム概要と 自由論題募集のお知らせ

2012年7月7日（土）、8日（日）の両日、日本国際文化学会2012年度第11回全国大会が、財団法人国際文化会館との共催のもと、国際文化会館（7日、東京都港区）と青山学院大学（8日、東京都渋谷区）において開催されます。これに関連して、7日15時より国際文化会館岩崎小彌太記念ホールで特別シンポジウムを予定しております。会員の皆さま方の多数の参加をお待ちしております。（大会プログラム概要を本ニューズレター2ページに掲載しています。）

### 自由論題発表者募集

- 1) 発表内容：個人研究発表とする（内容により、複数の発表者による発表も可とするが、その場合も1名分の時間とする）。
- 2) 発表時間：時間は質疑応答も含めて30分とする。
- 3) 応募資格：日本国際文化学会の会員に限る。ただし、現在会員でない方でも、4月1日以降直ちに学会事務局に会員登録を行うことにより、資格を得ることができる。
- 4) 応募要領：氏名、現職（大学教員・有職者の場合は所属と肩書き、大学院生・学生の場合は在籍課程などを明記）、連絡先（住所、電話番号、電子メールアドレス）、発表題目、キーワード（3～5語）を冒頭に記し、発表要旨（40字×25行以下）を付けてワード文書とし、電子メールに添付して下記宛先の電子メールアドレス宛に送信すること。電子メールでの提出が不可能な場合は、作成した文書をプリントアウトしたものを下記宛先に郵送すること。  
なお、応募が採択された場合、この発表要旨は大会当日に会場で配布される要旨集に掲載されるので、その旨注意すること。

5) 応募締切：2012年3月31日必着

6) 宛 先：電子メールの場合：

[jsics2012@yahoo.co.jp](mailto:jsics2012@yahoo.co.jp)（プログラム担当：成蹊大学文学部 川村 陶子）

郵送の場合：

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

青山学院大学総合文化政策学部 日本国際文化学会第11回全国大会実行委員長 岡 真理子

なお、自由論題発表の日程は以下の時間枠を用いる予定。

7月7日（土）9：00～11：00 / 7月8日（日）9：00～11：00

# 日本国際文化学会第11回全国大会 プログラム概要

## ●特別シンポジウム「災害と言葉、そして言葉と災害」(仮題)

今、言葉に何ができるのか。文化に何ができるのか。

福島から「喪失」を考える。

日 時：2012年7月7日(土) 15時～17時30分

会 場：国際文化会館 〒106-0032 東京都港区六本木5-11-16  
(電話 03-3470-4611)

パネリスト 東 浩紀(早稲田大学文学学術院教授、『思想地図β』編集長)ほか(調整中)

モデレーター 川村 湊(法政大学国際文化学部教授、文芸評論家)

## ●第11回全国大会(1日目と2日目で会場が異なります。ご注意下さい。)

(第一日) 日 時：2012年7月7日(土) 9時～20時(情報交換会終了)

会 場：国際文化会館 〒106-0032 東京都港区六本木5-11-16

(第二日) 日 時：2012年7月8日(日) 9時～16時(全日程終了)

会 場：青山学院大学総研ビル 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

## ■第11回全国大会実行委員会事務局

青山学院大学総合文化政策学部 岡 真理子(実行委員長) 研究室

電子メール jsics2012@yahoo.co.jp(プログラム担当：成蹊大学文学部 川村 陶子)

## ■参加費：一般会員事前登録 2000円(5月末日までに振り込みの場合)

当日支払いの場合 一般会員 2500円

一般非会員 3000円

学 生 1000円

今大会では、大学補助金の関係から、参加費の事前振り込みを奨励します。5月末日までに振り込まれた場合は、参加費を割引いたします。会員の皆さまには、ニューズレター第22号とともに、専用振り込み用紙を送付します。ぜひ、お早めに参加費をお振り込みの上、事前に参加をご登録下さい。

なお、国際文化会館の会員は、7日の特別シンポジウムに無料で参加できます。

## 《大会日程》

### □7月7日(土)【国際文化会館】

9:00～11:00 自由論題

11:15～13:15 共通論題

○第一次世界大戦後の「国際協調思想」と「革新思想」の相克—1920年代を中心に—

○日本の国際関係における通訳翻訳コミュニケーションの文化性：異文化コミュニケーションの視点から

○日米交流史の再検討—非国家主体に注目して—

○現在に生きる能楽—国際文化の観点による事例と検討

13:15～15:00 常任理事会と理事会の共同開催、昼食

15:00～17:30 特別シンポジウム

18:00～20:00 情報交換会(会場：国際文化会館)

### □7月8日(日)【青山学院大学青山キャンパス総研ビル】

9:00～11:00 自由論題

11:15～13:15 共通論題

○アジア太平洋地域の国際関係：太平洋問題調査会(IPR)とその群像

○地域社会と環境保全—南方熊楠の神社合祀反対運動再考

○文学で見る日本モンゴルの文化交流

13:15～14:00 総会、昼食

14:00～16:00 フォーラム「文化創成コーディネーター資格(仮称)の創設について」

## 【特別寄稿】

(前号に引き続き、国際文化会館との全国大会共催にあたり、同会館と縁の深い鳥飼玖美子常任理事に寄稿していただきました。)

# 国際文化会館と私

鳥飼 玖美子

国際文化会館の英語名は International House of Japan、通称を I-House という。日本と世界の人々の間の文化交流と知的協力を通じて国際相互理解の増進をはかることを目的とし、1952年にロックフェラー財団をはじめとする内外の諸団体や個人からの支援により設立された非営利の財団法人である。港区麻布の鳥居坂にある敷地は、江戸時代から幕末にかけては多度津藩（現香川県丸亀市）藩主京極彦岐守の江戸屋敷であった。明治初期には井上馨侯爵の所有となり、1887年には邸内の茶室移築のお披露目で明治天皇をお迎えして9代目市川團十郎による歌舞伎が演じられたという。数年前にはその120周年を記念して、天皇皇后両陛下をお招きしての天覧歌舞伎が岩崎小彌太記念ホールで再現された。I-Houseの日本庭園は港区の名勝に指定されるほど美しいが、これは岩崎小彌太郎であった時に造園されたものである。

私が小学校から高校までを過ごした東洋英和女学院が鳥居坂にあることから私にとっては昔から親しみのあるところである。I-Houseでクラス会や二次会をすることも度々であるし、同級生の中には結婚披露宴をした友人もいる。なにしろ日本庭園がすばらしく桜や紅葉が見事な上、料理がおいしいのだ。

同時通訳者の駆け出しだった頃は、勉強会でよく会議室を使った。何のプロジェクトだったか思い出せないが、國弘正雄氏が中心となり大学院生が集まったの翻訳の会合に参加したこともあった。

コロンビア大学ティーチャーズカレッジが MA in TESOL (英語教授法修士課程) を日本で開設した際、ニューヨーク本校から集中講義に来日する教授陣の常宿は I-House であった。ニューヨーク・キャンパスでの卒業式とは別に東京での修了式も行われたが、その場所も I-House であった。社会言語学の試験の日に仕事が入っていた為、Leslie Beebe 教授が特別のはからいで別の日に試験をしてくれたのだが、何と試験会場に使ったのが I-House の図書室であった。今でも図書室に行くと、試験用紙を前に呻吟したことを思い出す。Beebe 教授が I-House で朝食をしていて異文化コミュニケーション学で著名な Dean Barnlund 教授と出会ったことから、特別ゲストとしてご自分の授業に招いたこともあった。

そう、国際文化会館というのは、「出会い」を生むところかもしれない。

高校生の私が米国留学した際のホストシスターであったジューンが夫と来日し、国際文化会館に泊まってもらったところ、たまたま食堂で知り合ったのがハナマン夫妻であった。夫妻は聖公会の宣教師として私の実家近くに住んでいたことから親しくしていたが、既に引退して米国に戻っておられた。それがたまたま日本を再訪し I-House に宿泊してジューン夫婦と出会ったのだった。緑豊かな庭を見ながらお茶を飲んでゆったりしていると、知らない人同士が自然に話し合うようになる何かが I-House にはあるのかもしれない。

私自身がいつ国際文化会館の会員になったのか覚えていないが、同時通訳者から大学教員に転職してからなので20年近くにはなる。ピアニストの安川加寿子さんが推薦状を書いて下さった。会員になってからは講演やシンポジウムなどに訪れることも多い。ポストコロニアル研究で知られるスピヴァク氏の講演、細川佳代子氏による知的障害児を取り上げたドキュメンタリー映画の上映会、ベネット氏による異文化トレーニング講習会、黒柳徹子氏や日野原重明氏の講演、国際問題に関するシンポジウム等々、会館主催のものだけでなくさまざまな団体によるイベントまで幅は広いが、いずれも文化と知の国際交流という共通点を持つ質の高さが国際文化会館ならではの。滅多に講演を受けない作家の水村美苗氏も I-House 主催の講演は引き受けられ、庭の木々を眺めながら『日本語が亡びるとき』について言葉を交わしたこともあった。

同時通訳パイオニアのオーラルヒストリー研究をしていた頃、聞き取りの為にインタビューの場所について希望を聞いたところ、西山千、村松増美、國弘正雄の3氏が I-House を指定したのは印象的であった。戦後日米外交を担った同時通訳者たちにとって、国際文化会館は人生の重要な時期を過ごしたふるさとのような場所なのかもしれない。

最近の私は、イベント参加や食事だけでなく、新渡戸国際塾の運営委員として塾頭の平野健一郎先生をお手伝いしている（つもり、だけかもしれないが）。世界で活躍するような将来のリーダーを育てようという野心的な塾には、塾長の明石康理事長、塾頭の平野先生のもとに企業や官庁などから極めて優秀な若手が集まり研鑽を積んでいる。国際文化会館は日本と世界を繋ぐ拠点として、新たな出会いの場を創出しているといえる。

今年度の大会が国際文化会館で開催されることは、私に取って大きな喜びであり、国際文化学会がこれから国際文化会館といっそうの絆を深め、共に文化と知の交流を深めていくことを願うものである。



## 第3回「国際文化学」関連学部・大学院情報交換会開催報告

### JSICS 認定資格「文化創成コーディネーター（仮称）」事業化に向けて第一歩

2011年12月10日午後1時より、本年全国大会会場校の青山学院大学総合文化政策学部（東京青山キャンパス）において第3回国際文化学学部・大学院等情報交換会（以下、情報交換会）が開催された。参加大学は会場校の青山学院大学ほか9校、報告書段階で紙上参加した東北大学を含めて10校となった。

情報交換会は、会長ならびに共通資格担当の本原誠常任理事からの現状報告と問題提起のあと全国大会会場校挨拶、引き続きそれぞれの大学における、入学・カリキュラム・学生指導・就職などの諸問題について忌憚のない意見交換が行われて午後6時10分閉会した。

会場校挨拶では杉浦勢之学部長が総合文化政策学部の

理念と実状について学生自身による映像紹介も交えて語った。地域との交流を文化実践に求める「青山コミュニティラボ」を始めとして国際文化の基層に迫るメッセージは当会の行く末にとって大いなる示唆を与えた。

各大学からの報告と討議はそれぞれの固有の実績を踏まえた論点が提示された。実行責任を担う主役同士のライブ感覚の情報交換は他の会合では得ることの出来ない価値のあるものと言える。交流内容を記録した議事録は個別の事情に触れる部分が多く一般公開には馴染まないが、「取扱注意」を条件として希望する会員に配付している。ご希望の会員は事務局までご一報いただきたい。

最後に全体討議が行われ、認定資格を検討する吉岡剛彦担当理事(佐賀大学)から資格の形式・審査方法・学会の関わり方等々、核心に迫る報告が行われ討議が進んだ。

情報交換会は今回で三回の実績が積まれた。よって次の段階は学会自身が主導して認定資格「文化創成コーディネーター(仮称)」の事業化を進めることとなる。会員のみなさまのさらなる応援をお願いしたい。

末筆となりましたが、今年年末の多用中に参集いただいた青山学院大学杉浦勢之総合文化政策学部長、山口県立大学岩野雅子国際文化学部長、関西学院大学国際学部丸楠恭一教授、文教大学山口一美国際学部長、成蹊大学

文学部堀内正樹国際文化学科主任、佐賀大学文化教育学部高橋良輔准教授、京都文教大学人間学部松田凡文化人類学科長、龍谷大学国際文化学部ヤマンナール水野美奈子教授、東京大学大学院教育学研究科白石さや教授、紙上参加いただいた東北大学大学院小林文生国際文化研究科長のみなさまにこころより御礼申し上げます。

(報告文責：若林 一平)

会員各位

理事選挙の公示

2012年2月15日 日本国際文化学会事務局

日本国際文化学会規約第11条および理事選挙に関する細則に基づいて下記の通り選挙を実施します。

記

- 1 実施時期 2012年4月
- 2 投票方法 無記名による郵送投票
- 3 その他実施の詳細 理事選挙規則による

以上

## 会員名簿発刊にあたってアンケートを未提出の方へ

先般、ニューズレター第20号(2011年11月10日発行)にて、2012年3月の最新版会員名簿発刊をめざして「名簿に関するアンケート」用の郵便ハガキを同封いたしました。

しかしながら、未だ提出されていない会員の方が多数おりますので、該当する会員各位におきましては、至急、当該アンケートハガキをご返送いただくか、事務局宛てEメールまたはFAX、郵便にてご回答いただきますようお願いいたします。

本名簿の掲載項目は以下ようになっております。必ず各項目について掲載の可否も記入してください。

- ①氏名 ②ふりがな ③ご自宅の住所、電話・FAX番号 ④機関名、所属、肩書き、住所、電話・FAX番号 ⑤専攻・国際文化学との関係領域 ⑥メールアドレス

尚、回答を提出されない方につきましては、現在登録されているデータをそのまま利用させていただきますので、ご了承願います。

〒253-8550

神奈川県茅ヶ崎市行谷1100

文教大学国際学部山脇研究室内 日本国際文化学会事務局宛て

FAX: 0467-54-3722

Eメール: jsics2011@gmail.com

## 創立10周年記念基金への寄付のお願い

ニューズレター第19号(2011年9月15日発行)にて告知しました通り、今回設置された「創立10周年基金」への会員のみなさまからの寄付金をお待ちしております。期限が迫ってまいりましたので、あらためて寄付へのご参加をお願いいたします。

期 間	2011年8月～2012年3月
目 標 額	200,000円
お一人あたり寄付金	100円以上
寄付申し込み	jsics2011@gmail.com タイトル: 10周年寄付 本文: お名前と寄付金額
送金方法	事務局への手渡し、あるいは基金口座への入金
基金口座	スルガ銀行 茅ヶ崎支店 普通 2943508 名義人 日本国際文化学会 ニホンコクサイブンカガクカイ
寄付金控除	学会名での領収書を発行します。 確定申告の際に各税務署にて対応してください。
顕彰方法	寄付結果をニューズレターで公示します。 匿名希望の方はご希望に沿います。